

第9回
千代田中部小学校

私たちの学校自慢



この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらおうコーナーです。

9回目は、千代田中部小学校です。運営集会委員長の舩津みなみさん、副委員長の上靄悠人さん、黒板書記の本村花奈さん、補助の荒木玲美さん、寺町篤哉さん、重松敦樹さんの6人に話を聞きました。

この学校の自慢は何ですか？

- 舩津さん 「学校農園があること」
- 上靄さん 「伝統ある高志狂言」
- 本村さん 「花がたくさんあること」
- 荒木さん 「自然に囲まれた学校」
- 寺町さん 「声が大きく笑顔であいさつすること」
- 重松さん 「農園が広いこと」

優しい心育む学校農園



いろいろなと挙げてくれましたが、花が多いことと学校農園に注目したいと思います。
現在、小学校西側に隣接して、一四二一mの学校農園があります。県内で、二を争う広さの農園は、地元農家の協力で貸していただいているものです。平成7年に文部科学省から勤労生産学習校の指定を受け、当初は、野菜ではなくコスモス栽培からスタートしました。

以来、花を育てることに力を入れ、南側に花壇も設置。花いっぱいコンクール優秀校を何度も受賞するほどです。最初は、全く興味がなかった子どもたちも、毎日水をやり、花が枯れたら悲しみ、咲いたら喜ぶ。花を育てることで子どもたちの心も変化してきました。人にも優しくなったということです。



大きく育った野菜に笑顔の5年生

6年ほど前から農園で本格的に野菜作りを始めました。草取りや害虫捕りなど花栽培以上に手間がかかりますが、全学年の児童が近所の農家や農協の指導も受けながら、白菜や大根など季節ごとにさまざまな種類の野菜を育てています。

3年前からは、5年生が収穫した野菜を総合学習の一環で地域の人に販売するようになりました。

子どもたちは「たくさん野菜が採れて嬉しい」「地域の人が良い人ばかりで一緒に作業できて嬉しい」と答えます。

花や野菜を育てることで、人に対して優しくなるとともに、協力して作業することで、児童全員が仲良くなったと感じています。

学校では、「言われて嬉しい言葉を言おう」「人が喜ぶことをしよう」という「ほかほかアクション」運動にも積極的に取り組み、校内だけでなく、地域の人にも感謝の気持ちを伝えていきます。千代田中部小学校の自慢は「優しい心育む学校農園」と言えるでしょう。



校長先生から一言

これからも明るく元気に心優しい子でいてください。
みんなが応援しています。

千代田中部小学校 校長 永渕 由利